

I 調查概要

I 調査概要

1 調査目的

市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握するとともに、市内の事業所における休業制度や女性の職域拡大、働く環境の実態を把握し、「第2次西予市男女共同参画基本計画」策定の基礎資料とすることを目的に実施した。

2 調査設計

<市民意識調査>

- (1) 調査地域 西予市全域
- (2) 調査対象 市内に居住する19歳以上の男女（平成29年4月1日現在）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査時期 平成29年7月4日～7月28日
- (6) 回収結果

標本数	有効回収数	有効回収率
1,000人	386	38.6%

<事業所意識調査>

- (1) 調査地域 西予市全域
- (2) 調査対象 市内に本拠地があり、従業員が概ね10名以上いる事業所
- (3) 抽出方法 無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査時期 平成29年7月4日～7月28日
- (6) 回収結果

標本数	有効回収数	有効回収率
50事業所	37	74.0%

3 報告書の見方

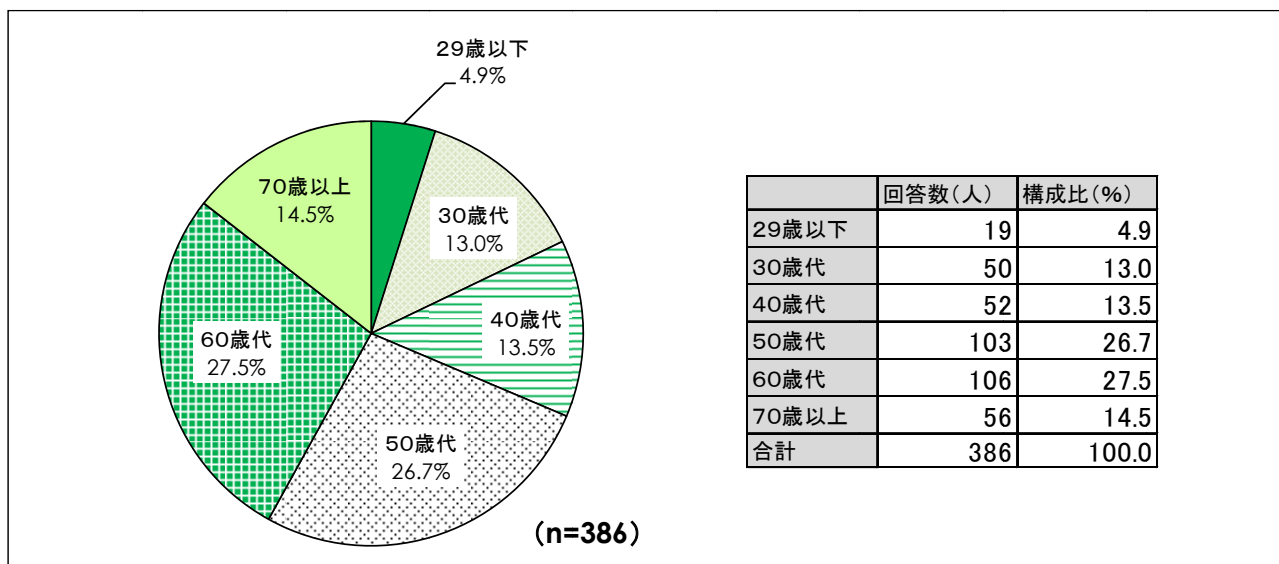
- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率は、すべてを 100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が 100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は、調査数を上回る場合があります。複数回答の質問については無回答は省いて集計しています。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数(母数)の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。
- (5) グラフ中の数値が 0.0%の場合には省略している場合があります。

II 調查結果 市民意識調查

1 回答者の属性

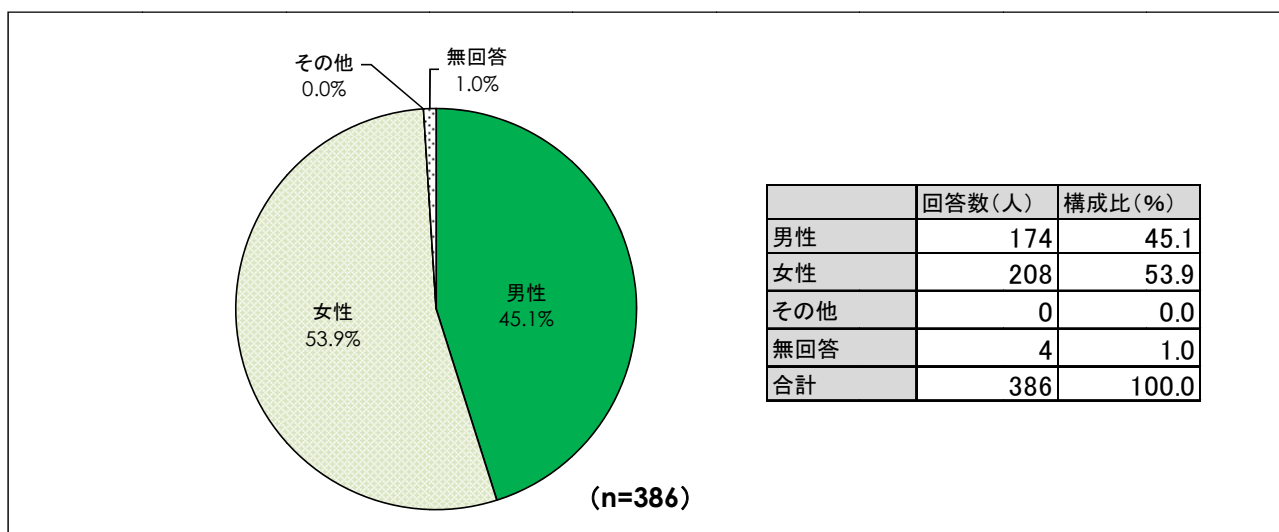
問1 あなたの年齢についてお聞かせください。(〇は1つだけ)

回答者の年齢は、「60歳代」が27.5%と最も多く、次いで「50歳代」が26.7%となっており、「70歳以上」(14.5%)を合わせると、50歳以上が68.7%と約7割を占めています。



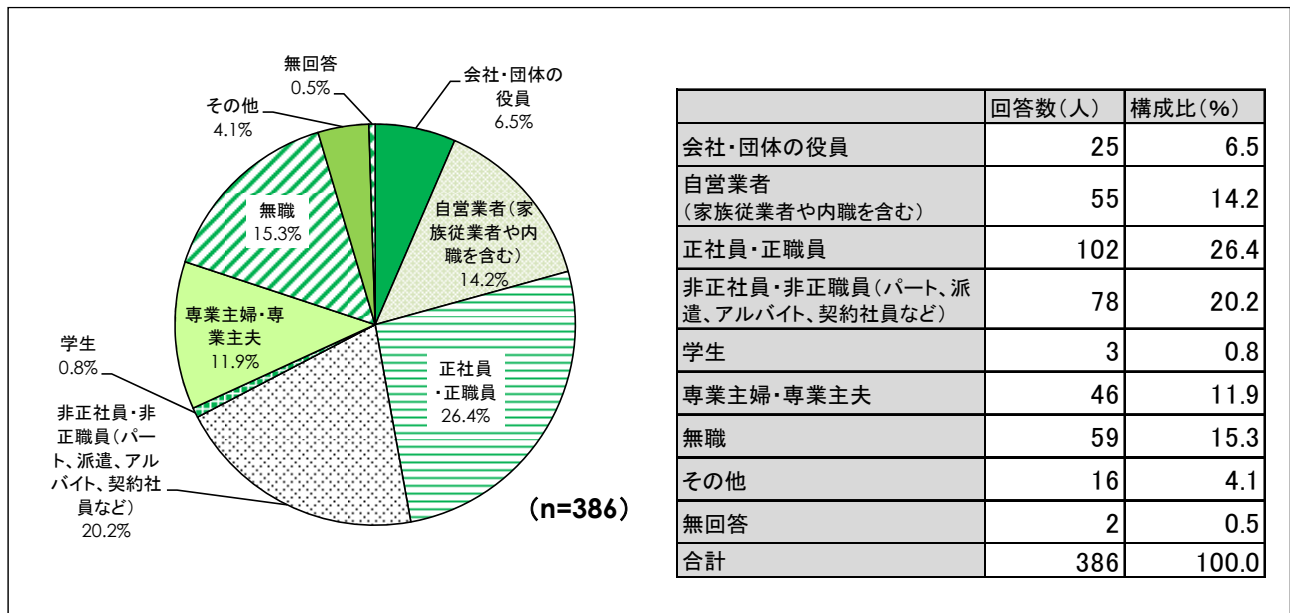
問2 あなたの性別についてお聞かせください。(〇は1つだけ)

回答者の性別は、「男性」が45.1%、「女性」が53.9%となっており、回答者はやや女性が多くなっています。



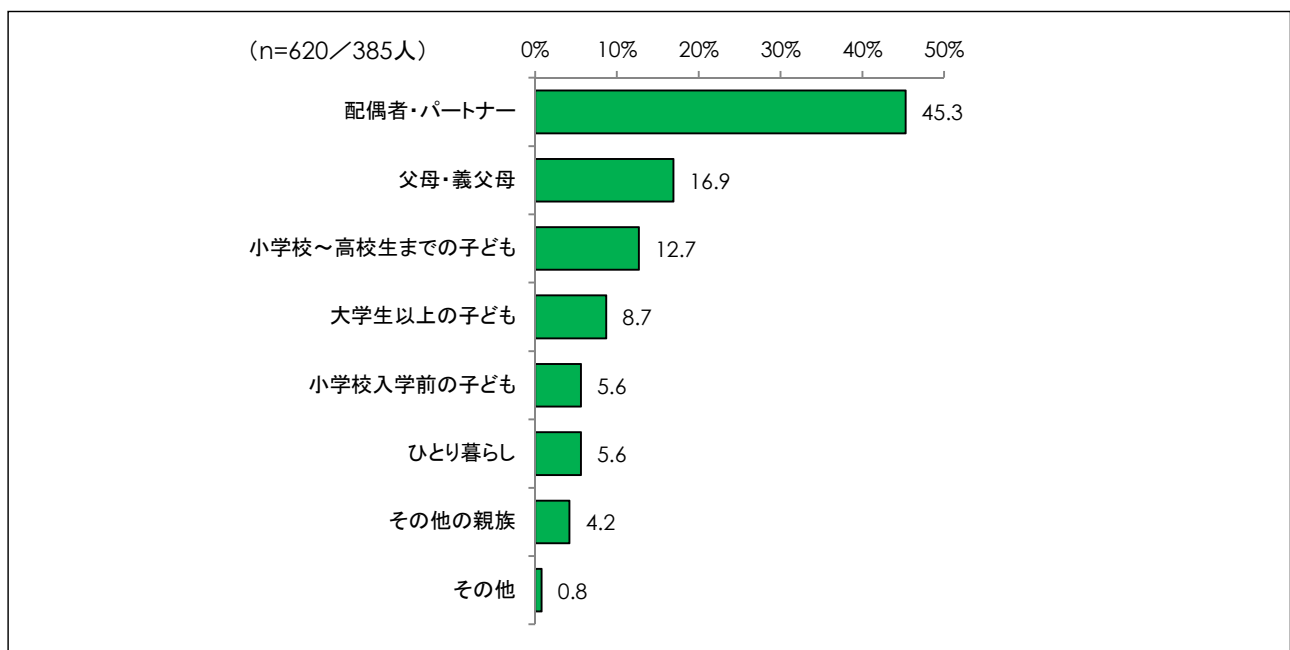
問3 あなたのご職業（勤務形態）についてお聞かせください。（○は1つだけ）

回答者の職業は、「正社員・正職員」が 26.4%と最も多く、次いで「非正社員・非正職員（パート、派遣、アルバイト、契約社員など）」が 20.2%となっています。



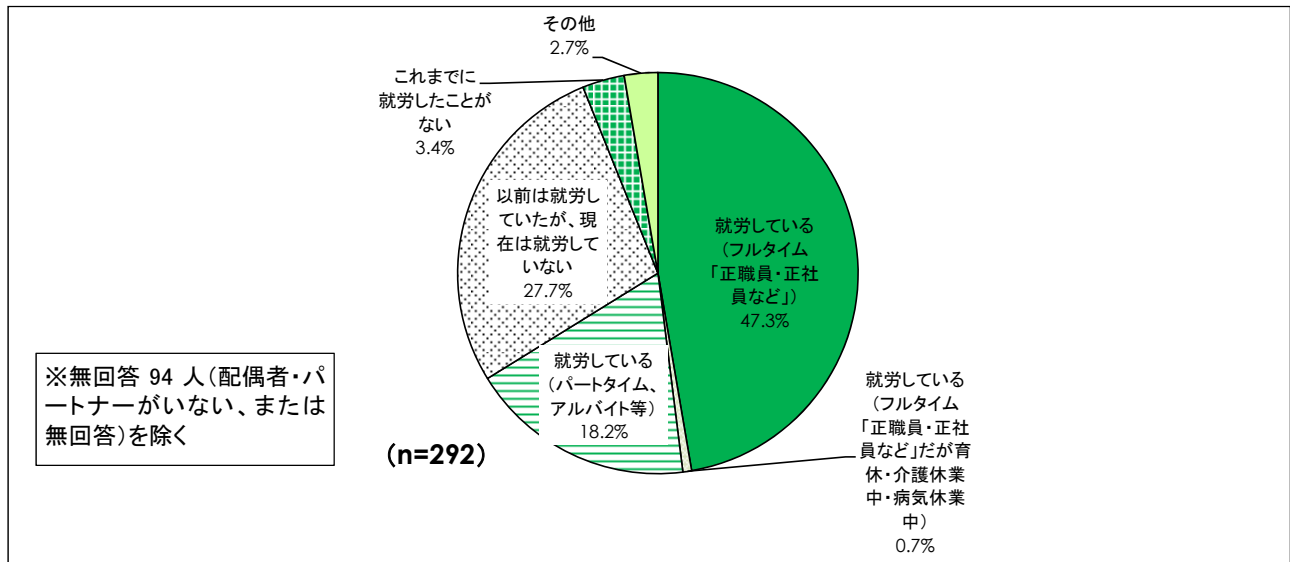
問4 あなたは現在、どなたと一緒に住んでいますか。（当てはまるものすべてに○）

回答者の同居者についてみると、385人からの回答があり、「配偶者・パートナー」が 45.3%を占め、最も多くなっています。次いで「父母・義父母」(16.9%)、「小学校～高校生までの子ども」(12.7%) などとなっています。



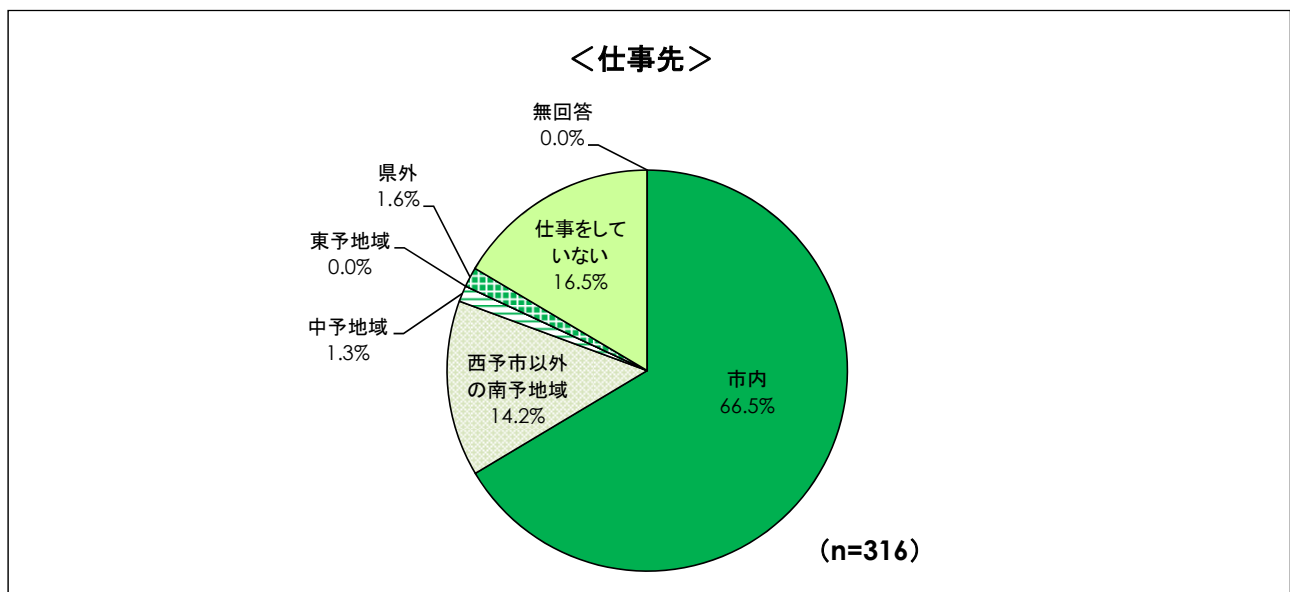
問5 配偶者・パートナー（別居・同居を含む）がいいらっしゃる方におたずねします。配偶者・パートナーの方の就労状況をお聞かせください。（〇は1つだけ）

配偶者・パートナーの方の就労状況をたずねたところ、「就労している（フルタイム「正職員・正社員など」）」が47.3%と最も多く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」（27.7%）、「就労している（パートタイム、アルバイト等）」（18.2%）などとなっています。



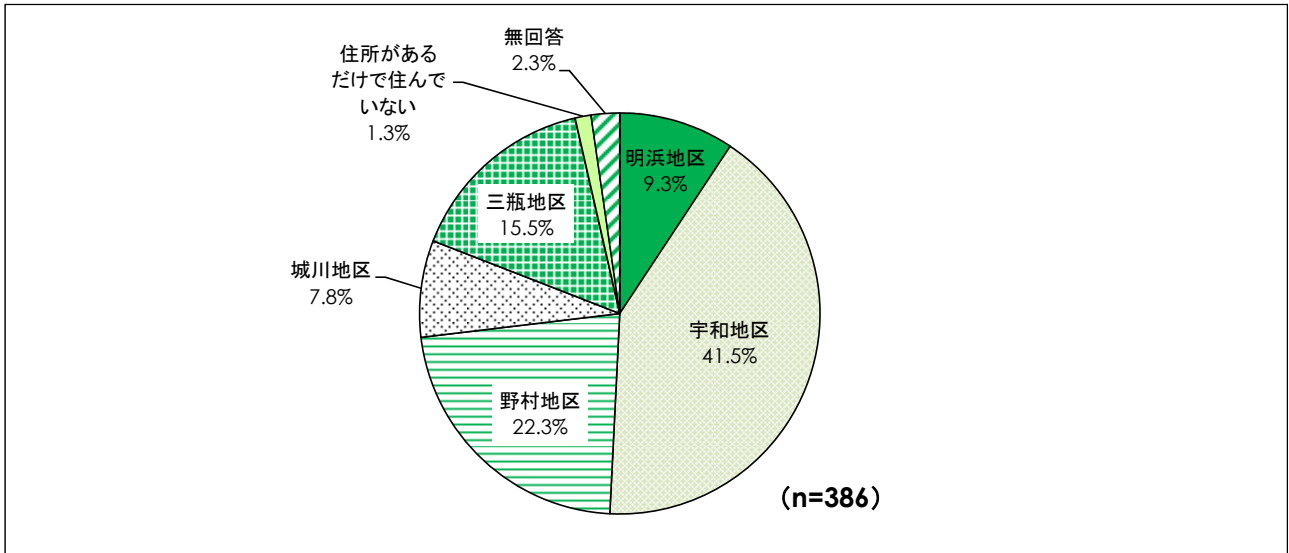
問6 あなたの仕事先又は通学先はどちらですか。（仕事又は通学先に〇は1つだけ）

回答者の仕事先又は通勤先をみると、仕事先では「市内」が66.5%、「西予市以外の南予地域」が14.2%となっています。また、「仕事をしていない」は16.5%を占めています。



問7 あなたのお住まいの地域についてお聞かせください。(〇は1つだけ)

回答者の居住地区をみると、「宇和地区」が41.5%と最も多く、次いで「野村地区」(22.3%)、「三瓶地区」(15.5%)、「明浜地区」(9.3%)、「城川地区」(7.8%)となっています。



2 男女共同参画社会について

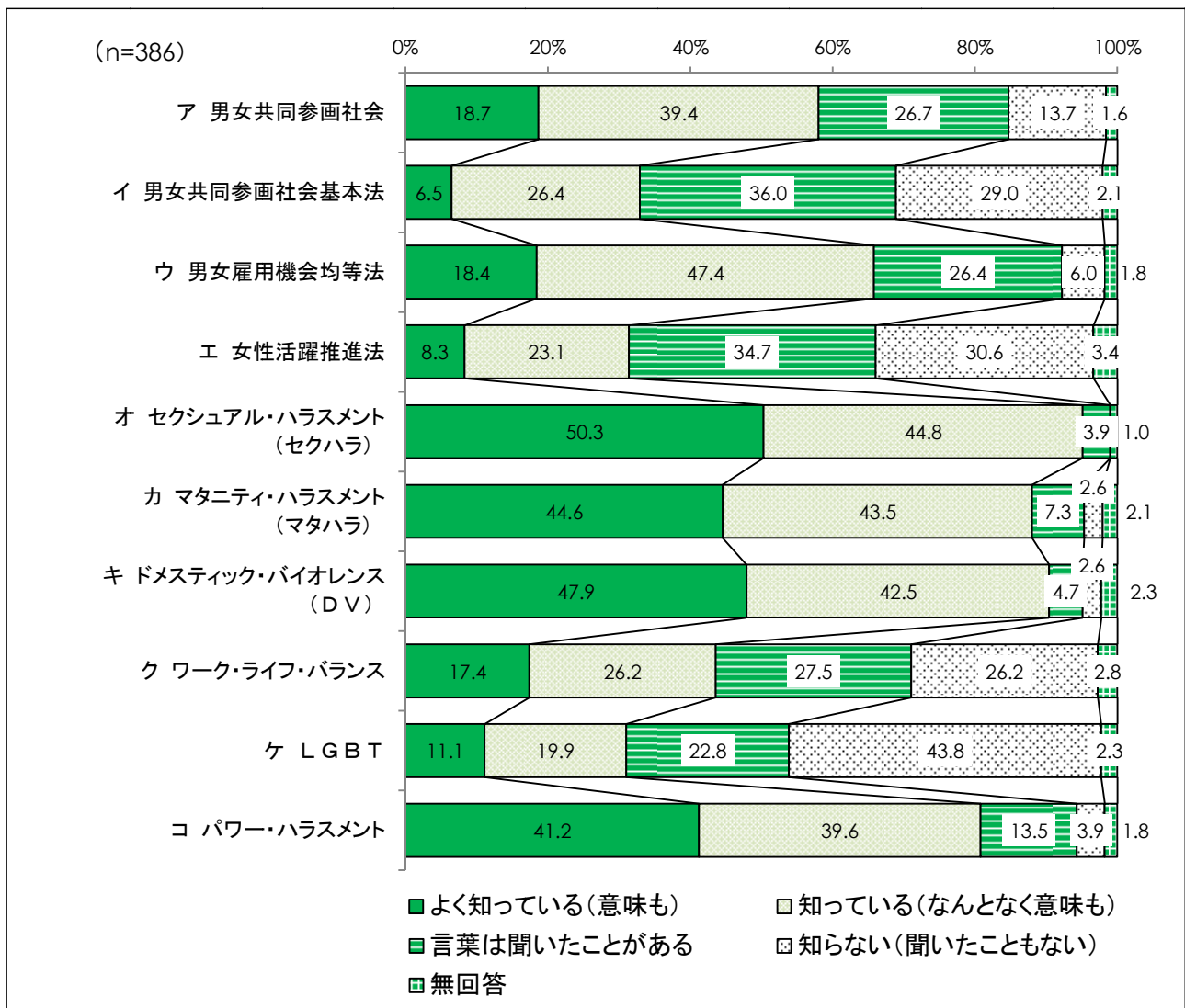
1 男女共同参画の周知度

問8 あなたは、以下の言葉をご存じですか。次のア～コのそれぞれの言葉について、該当する番号を1つ〇で囲んでください。

【全体の傾向】

男女共同参画に関する言葉の周知度をたずねたところ、「よく知っている（意味も）」、「知っている（なんとなく意味も）」を合わせた『知っている』の割合は、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」（95.1%）、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」（90.4%）、「マタニティ・ハラスメント」（88.1%）などで高くなっています。一方、『知っている』の割合が低い言葉は、「LGBT」（31.0%）、「女性活躍推進法」（31.4%）、「男女共同参画基本法」（32.9%）となっており、周知度がやや低くなっています。

図表 1 男女共同参画の周知度（全体）



【属性別の傾向 男女別】

男女別にみると、「男女共同参画社会」、「男女雇用機会均等法」については男性の『知っている』の割合が女性の割合を大きく上回っています。女性の『知っている』割合が男性を大きく上回っている言葉は、「マタニティ・ハラスメント」、「LGBT」などとなっています。

図表 2 男女共同参画の周知度（男女別）

